

白友会会報

編集責任者
城戸滝枝
大阪医科大学
附属看護専門学校
No. 5
平成14年3月

会長あいさつ

白友会会長

勢川 瑠美子



新しい年度を迎え、同窓会員の皆様は如何お過ごしでいらっしゃいますか。

昨年は新しい世紀を迎え、新たな意気込みを感じておりましたが、日

本の国だけでなく、世界で心痛む事
件の多い年でした。そのような中で、
私達看護職者にとっては昨年末に保
助看法の一部改正が認められ、今年
の三月一日から「保健師・助産師・

看護師・准看護師」と名称が変更し
ます。患者さんや国民の皆様には、
今まで慣れ親しんできた名称が変わ
ることは戸惑いもあるかと思いま
すが、「師」でスタートすることを
専門職として、質を上げ、成果を上
げることで示すことの努力をしてい
きたいと考えております。

一方医療財政では、診療報酬の引
き下げや、国の予算削減など厳しい
状況が続きますが、このような時こ
そ、看護の時代がきたことを自覚し、
地域住民のより近いところで看護の

活動を実践することの必要を感じて
おります。母校で教育に携わる私達
の責務はこれまで以上に重く、更な
る看護の可能性を追求し継承して
れる後輩の育成のために、力を注い
でいきたいと心致しております。

そのためには、これまで本学が培っ
てきました臨床と基礎教育との連携
を密にすることは勿論、その上に今
患者さんが望んでいらっしゃるこ
とにきちんと向き合えるよう
に、入学してくる看護学生
の苦手とするコミュニケーション
シヨン技術を、入学と同時に
に教育し少しでも効果を上
げるためのカリキュラムを
検討し実施にむけてすす
めています。

一方臨地実習の場となる
附属病院の発展のために新
病棟建設の年に当り、これ
までご協力いただいた会員
の方々にお礼を申し上げます

すと共に尚一層多くの会員のご協力
をお願い致しまして、私の挨拶とさ
せていただきます。

尚、次回の総会までにはまだ日が
ありますが。その間会員の皆様から
お声をかけていただきますことを役
員一同お待ち致しております。



平成13年度活動報告

白友会副会長

城戸滝枝

平成十三年度の活動状況について
ご報告申し上げます

(活動報告)

- 1 役員会
 - 2 「白友会」会報5号発行
 - 3 母校教育活動への協力
大阪医科大学附属看護専門学校
行事
入学式・戴帽式・卒業式時「祝電」の打電
 - 4 「白友会」会員名簿再確認
以上
- 今後の同窓会活動についてご意見やご提案がありましたらご一報をお待ちしております

平成12~15年度 同窓会役員

役名	氏名 (卒業課程・回生)	役員交代氏名 (卒業課程・回生)
会長	勢川 瑠美子 (新制看護・1回生)	
副会長	橋本 豊子 (看護二年定時・2回生)	⇒ 城戸 滝枝 (看護二年定時・4回生)
書記	神谷 美佐子 (看護二年定時・5回生) 守本 俊子 (看護三年全日・3回生)	
会計	城戸 滝枝 (看護二年定時・4回生) 小野 恵美子 (看護二年定時・18回生)	⇒ 西山 裕子 (看護二年定時・9回生)
会計監査	宮武 明 (看護二年全日・2回生) 服部 誠子 (看護二年定時・5回生)	
常任幹事	坪内 操 (新制看護・2回生) 小倉 栄子 (看護二年全日・7回生) 山本 利枝 (准看護・15回生) 森山 幸子 (看護二年定時・14回生) 小牟田 美幸 (看護二年全日・13回生) 黒岩 真紀 (看護三年全日・1回生)	⇒ 藤原 良子 (准看護・13回生) ⇒ 佐藤 真由美 (看護三年全日・1回生)

役員交代について

平成十三年三月で役員三名退職のため、同窓会会則「第七条 三」に従い、役員会で選出しましたので、報告いたします。

第七条 三 「役員に欠員が生じた場合は役員会に一任する。その場合の任期は、前任者の残任期間とする。

病院の近況報告

大阪医科大学附属病院
看護副部長

富成 よし子

白友会の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。大阪医科大学附属病院看護部は、より質の高い看護を目指すとともに、能率的・効率的・そして規律ある看護の向上にむけ、日々研鑽を重ねております。

平成十三年四月一日には、三島救命救急センターより富士原 彰教授を迎えて新しく救急医療部が開設されました。地域の救急医療に大きな力を発揮し、当院が地域医療に対する新たな役割を担えるべく職員一同頑張っている今日この頃です。

このような中、今日の車社会において現実起こりうる大災害を想定した災害訓練が実施されました。訓練には医師・看護婦はもとより、医学生・看護学生らが参加し、一体となり、災害医療の手順を実施することにより確認致しました。よりリアルさを出すために、患者らしくメイクアップした学生らが演技を交えながらの臨場感あふれる患者役になり、それを受け入れる医師も看護婦も真剣に対処していました。同時に、救急看護に関する研修も行われました。この研修には二〇〇名以上

の参加希望があり、救命救急に対する関心の高さが伺えました。

二十一世紀、ますます多様化する社会にあつて、医療・保健・福祉の環境は量的にも、質的にも複雑化する中、看護の役割は重要でより広い視野が求められています。本院も特定機能病院としての役割を担っており、私達看護婦は、質の高い看護を常に提供できるよう一層の努力をしてみたいと考えております。会員の皆様には暖かいご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



平成13年度

会
計
報
告

< 収 入 >		
項目	金額	備考
繰越金	10,000,033	
会費	850,000	新入会員2名 13年度卒業生83名
賛助広告	0	
合計	10,850,033	

< 支 出 >		
項目	金額	備考
事業費	458,970	会報4号発送
会議費	0	
管理費	630	文具代
予備費	118,175	祝電代(入学式・戴帽式・卒業式・ 叙勲・弔電代2名・叙勲祝い1名)
合計	577,775	
繰越金	10,272,258	

平成14年3月31日

母校の近況報告

清泉寮について

学生の生活の場として当初は附属病院の看護婦との共用寮であったが、高槻市別所中の町に学生専用寮として用地二〇八四㎡を取得した。

昭和四四年春に三五室で約九二名収容の清泉寮（一号館）が建築され、その後、昭和四八年六月に三六室で約七二名収容の二号館が増築され、昭和五三年二月には三号館として個室三六室を建築した。管理部門も順次充実し、建物が約四四二六㎡で寮室数一〇七室となり、寮生約二〇〇名の収容可能な規模となった。

昭和五七年まで全寮制であったが、昭和五八年度より一年次のみ全寮制とし二年以上は通学制を取り入れた。その後、近隣の学生の増加、個室志向等の社会情勢もあり、平成九年度から自宅より通学時間一時間以上かかる学生で希望する者が入寮できる制度にした。したがって、寮生が七〇名を切る状況となり、施設の有効利用と建物の老朽化も考慮して平成一三年三月で閉寮に至った。

現在は附属病院愛泉寮に入寮して有意義な学生生活を送っている。

思い出多い清泉寮

准看護婦学校

昭和47年度卒業18回生

常盤由美

「水の清く澄んだ泉」看護学校の寮としては、びつたりの名前の清泉寮に、一八歳から五年間の学生生活を過ごしました。一八歳で初めての寮生活でしたが、門限や掃除の検閲、お風呂の時

間から洗濯の時間、電気製品の持ち込み制限に至るまで寮が大変厳しい事と、寮内や通学路にいたるまで先輩看護婦さんの視線を意識した毎日、入寮当初は緊張の連続であったように思います。しかし寮則が厳しいだけに、ルームメイトとは、不満も含めて会話する機会が多くなり、初めての寮生活も直ぐに順応できました。又、現在のように、いつでも電話ができる時代でなかったので定期的に、母が菓子や日用品を準備してくれ、父が梱包、宛名書きをしてくれた小荷物を受け取る度にふるさとや、家族のいる有難さを感じていました。



この五年間で得たものは、同じ目標をもち励まし、やり遂げられた、生涯を通じての友人です。三〇年もの年月は過ぎていても会えば直ぐに、学生のあの頃に、寮生活や学校の思い出話に花がさき、お腹の底から笑い合える友を得た事です。今年の年賀状に「思い出多い清泉寮がなくなるそうで寂しくなります」と書き加えました。きっと多くの友人が感慨に浸っていることと思います。

時効になったあの事この事

二年課程定時制

昭和47年度卒業6回生

辻節子

万博の年昭和四五年に入学した六回生は、一年間を愛泉寮で、その後二年間を清泉寮ですごした。

私の清泉寮での思い出といえば、点呼から始まる夜の時間帯である。集合のあと戻った部屋で、当時規制されていた電熱コンロや湯沸かしポットを使用する。と、担任の先生からテレビの映りで分かるど注意を受ける。しかし、何度回収されても誰かが買って使用する。深夜になると壁から音がするという部屋に集まっては時間を過ごし、周囲は田んぼで風の音でもしたのだから、「昔、墓地だったらしい」と、噂話もでる。結局、何も聞かないまま解散する。これも、許されていなかったが、準夜勤務を終えて、夜道を歩いて帰るのは危険なのに愛泉寮に宿泊せず帰寮する者がある、翌日、現学校長より「中から開けなければ入れない」と、柔らかに厳しく指導を受けても誰かが同じ事をする。など、今考えれば恥ずかしい行動であるが、三〇年余経った今、時効として戴きたい。一部屋四人の賑やかで楽しい共同生活の中で日常の過ごし方などを学んだ場であった清泉寮への懐かしい思い出は、一年間を過ごした愛泉寮に引継ぎ残していきたい。

私の心に残る寮生活

二年課程定時制

昭和56年度卒業15回生

福 富 美 樹

私が清泉寮に入つてまず驚いたのは、私も含めて地方出身者が多かったことです。その為、寮の中で交わされる言葉はとても地方色豊かな方言でした。それでも三年も経つと関西弁を使い分けられる様になっていました。今でこそ携帯電話は若者の必須アイテムですが、あの当時寮の私用電話は公衆電話のみで空かずの電話と呼ばれたほど競争率の高い貴重な通信手段でした。また、寮のホールで行われていた新入生歓迎会やクリスマス会等での先生方や先輩、後輩との交流も楽しかった思い出です。

寮の規則に基づいての共同生活の中では各個人の自立とお互いを思いやる心が培われ後の看護職を継続する為の大切な要素となりました。清泉寮での語りつくせないほどの思い出と、かけがいのない友との邂逅は私の心の中をいつも暖かく満たしてくれるものです。

看護学生の学ぶ環境

二年課程全日制

平成5年度卒業25回生

原 田 美穂子

春。憧れの大阪医科大学附属看護専



門学校に合格し、看護婦への夢に一步近づいたことへの喜びと、これから始まる学校生活に少しの不安を感じながら人生の新しい季節に踏み出したあの頃。そんな学生の心境を心得ているかのように、清泉寮はどっしりとたたずまいを構え私たちを迎えてくれました。全寮制であったあの頃は「清く正しく美しく」という言葉の如く、規律正しい生活が看護学生として学ぶ環境に適していました。また人間対人間の関係を基盤とする看護婦として「協調性を養うこと」を学ぶ場所となりました。

学生の頃に仲間と励ましあい、互いのことを考えながら生活することは大変良い機会でした。また実習から帰るとやさしい寮母さんが迎えて下さり、まるで家に帰ってきたような安堵感に何度も支えられました。私たちは清泉寮という場所で育ってきました。しかし多くの看護学生を送り出した清泉寮は平成十三年の秋、その役目を終え静かに整地に戻りました。私たちの清泉寮はその役割を違う形に変えて、これから育つ看護学生に礎を託してくれることを願います。

楽しい思い出を与えてくれた場所

三年課程

平成4年度卒業 八回生

安 田 麻 里

私達八回生三〇名は、大阪出身者と九州など遠方出身者が約半数ずつであった。親姉妹や親しい友人と離れた寮生活は、自由気ままなそれまでの生活とは異なっていた。そのため学校生活が二四時間続いているような、緊張感と拘束感があったことを覚えている。

しかし、すぐに慣れ楽しい寮生活となった。夜は自然とひとつの部屋に集り、消灯時間を忘れ、尽きる事のない話をしていた。そうするうちに、自然に方言がうつりあい、出身地がわからなくなる事もあるほどであった。

また、ちょっとした「癖」や「こだわり」なども、さまざまであった。自身の寝言の癖も、今でも度々話題となっている。

そのような寮生活を通して築いた同級生との関係は、これまでの友人関係以上のものであり、学校生活だけでは得られなかったと感じる。清泉寮は、本当に懐かしく楽しい思い出を、たくさん与えてくれた場所である。

恩師からの メッセージ

最近の医療をめぐる

大阪医科大学名誉教授
大阪医科大学附属看護専門学校
非常勤講師(保健医療論担当)
矢次 正利

筆者が大阪医科大学附属看護専門学校で非常勤で講義を担当したのは、昭和五十年からのことであり、すでに二十六年間を経過している。まさに光陰矢の如しの感がある。講義科目は最初の哲学から、カリキュラムの変更に従って、医学概論、更に現在の保健医療論に移ってきている。ここでは最近数年の医療倫理(バイオエシックス)の講義テーマをごく簡単に紹介しておく。

周知の如く、一九七十年前後から先端医療革命という用語が用いられているように、医療の内容は抜本的に変化してきた。その第一は、高度な医療技術・器具・薬剤の開発であり、これによって人間の生命の誕生(生殖医学)、ならびにその終焉(延命操作)に対して大胆な人為的介入が可能になったことである。具体的には、A.I.D、I.V.F、胎児診断と中絶、代理母、更には、尊厳死、死の定義と臓器移植、

Q・O・Lなどが挙げられる。第二には、患者の人権思想の発達に伴い、インフォームド・コンセント、ヘルシンキ宣言、倫理委員会の設置、リビング・ウィルなど反パターナリズムの動きである。第三には、現代文化での価値観の多様性と自己決定権の重視が認められ、これらは政治的に中立性を保証されている。そして最後には、これらとはいささか質の異なる医療経済の問題が存在している。即ち、今後の高齢化社会の到来とか医療費の高騰に対して、医療資源の公平な配分が、いかにして万人のための医療という社会的正義を達成できるかということである。

これらの諸問題は過去の人類の叡知だけでは解決不可能な側面も多く、医師・ナースなど医療者全体に課せられた難問である。いわば、現代では、医療は医療者对患者の関係を越えて、社会の枠組に巻き込まれているのである。とはいっても、時代の趨勢はともかく、医療の原点はやはり人間相互の信頼なくしては存在せず、いたずらにヒポクラテスとかナイチンゲールを過去の遺物とみなさず、その精神は尊重されねばならないと筆者には思えてならない。



定例同窓会

私たちの同窓会

二年課程定時制
昭和45年度卒業生

中谷 茂子
(旧姓 小笠原)



大阪医科大学附属看護専門学校を卒業して三〇年の月日が過ぎました。その間、二・三年に一度クラス会を開催し集まっていましたが、なかなかゆつくり旅行とはいきませんでした。今年皆で「のんびり旅行に出かけよう」とを合い言葉に勢川先生もお招きし、一泊二日の赤穂への旅が実現しました。九人のクラスメイトと勢川先生と、秋の赤穂へ向かって新大阪を出発。違った時点ですぐ昔に戻れ、ワイワイ、ガヤガヤ近況報告も含め話に花が咲きました。伊部では備



前焼に挑戦。手だけで焼き物を作っていく感覚を楽しみました。自分らしい皿やコップ等、形はいろいろですが、十二月の出来上りが楽しみです。その後、備前焼のお店を数時間も見て歩

き、ちよつとした目利きができるようになりました(？)。赤穂のお店で選ぶこと一時間、すてきな備前焼を買いました。

旅館「祥吉」では、海の幸とおいしいお酒で宴会、不参加者の近況報告など楽しい一時を過ごしました。温泉にゆつくり入り、また一部屋に全員が集まり、時の経つのを忘れてしまいました。翌日は朝から雨が降っていました。香川県からの合流組も含め倉敷の大原美術館や美観地区を散策し、しっとりとした倉敷の町の風情を楽しみました。

今回参加できなかつたクラスメート達は、御両親の介護や病気が主な理由で、自分達の年代を感じました。是非次回は一人でも多くのクラスメートが参加できるように計画したいと思います。三度も下見に行つて下さつた幹事やお忙しい合間をぬって一緒に旅行して下さつた勢川先生に感謝しています。

同窓会の思い出

二年課程定時制

昭和47年度卒業生

井手 寿美枝

平成十三年四月十四日～十五日滋賀県大津にて一日泊りの同窓会が開かれました。看護学生時代の話に花が咲き、懐石料理に舌つづみをうちつつ、賑や

かな夜を過ごしました。皆それぞれの人生を歩んでおり、現在大学で学ぶ人もあれば、現役で頑張っている人、主婦でボランティアをしている人など全員が生き生きとしておりました。二日は琵琶湖汽船(ミシガンピアンガ)に乗り琵琶湖一周を楽しみました。今回、久しぶりの同窓会となつたのは、前年に同窓生の革島敬子さんの計報で、告別式に参列した人達の呼び掛けがきっかけでした。あらためてご冥福をお祈り致しますと共に、お互いに健康に氣をつけて再び笑顔で会える事を楽しみにしています。(次回は島根県の予定です)



叙勲おめでとうございます

勢川学校長は平成十三年五月、多年にわたり看護教育並びに臨床看護を通して、広く地域医療に寄与された御功績により、勲五等宝冠章を受章なさいました。この勲章は女性にだけ与えられる荣誉ある勲章であります。

平成十三年六月九日、大阪全日空ホテル万葉の間におきまして、学校法人大阪医科大学理事長田中忠彌様をはじめ、理事でいらつしやる元外務大臣・衆議院議員中山太郎様、大阪医科大学学長島田眞久様、他多く



の方々の御臨席を賜り、記念祝賀会が盛大に執り行なわれました。司会は、元朝日放送のアナウンサー玉井孝さんにお願ひ致しました。学校長は艶やかな和服姿で、御出席なさつた方々のお祝ひを受けておられました。



野菊のごとき君をりき の前半から
カリアの一輪ありて座はなやぐ
の後半まで
勢川先生の宴は いつも上品なはなやぎ
に包まれます。進行係の私も楽しい
快い気分ですとめることが出来ました。本当に
に残る いい会でした。
いつまでも お美しくおえいで御活躍下さい。
御厚情に感謝しつつ。

玉井 孝

新入会員紹介

新会員紹介

灰塚 美佐枝 二年課程定時制 昭和57年度 16回生

詫間 栄子 (田宮)

、准看護婦学校 昭和40年度11回生・二年課程定時制昭和45年度 4回生

(平成13年度卒業生) 第一看護学科17回生45名

青谷 睦 美 川 田 祥 子
 秋元 恵 恵 北村 幸 恵
 石川 裕 子 児嶋 智 子
 井村 由 衣 小 小 林 凡 子
 井筒 朝 子 小 小 藤 美 子
 井上 裕 美 子 佐 藤 奈 聖 美
 井口 真 知 子 澤 藤 杉 田 尾 好 津
 岩重 真 恵 子 杉 高 高 山 田 中 田 山
 上野 尚 尚 子 高 高 武 田 辻 徳
 宇山 尚 友 子 武 田 辻 徳
 大岡 友 保 祥 律
 片岡 脇 崎
 川崎 崎

中尾 睦 美
 灘本 妙 江
 西岡 寛 子
 西山 文 子
 濱山 和 美
 檢山 絵 綾
 廣瀬 明 代
 満河 佳 余
 三南 森 陽 子
 横吉 真 美
 久美子

(平成13年度卒業生) 第二看護学科33回生38名

一ノ瀬 直 子
 今井 麻 里
 岩崎 涼 子
 上垣 久 美
 江口 優 美
 大田 智 恵
 加藤 久 香
 上村 香 織
 亀澤 礼 子
 久保 正 子
 久田 有 希
 窪玉 庭 津
 児庭 菜 子
 木貞 包 子
 佐藤 妙 子

杉田 真 梨
 曾我部 彩 薫
 高橋 千 子
 高橋 愛 明
 竹原 優 佳
 鶴岡 千 穂
 中野 久 倫
 林田 崎 子
 廣藤 幸 紀
 古前 亜 美
 三浦 安 美

宮崎 昭 子
 村上 叙 摩
 室田 貴 之
 本山 山 友
 山崎 由 香
 渡邊 沙 里
 季

事務局からのお知らせ

△クラス会を開催▼されましたら、どうか事務局へもご一報下さい。懐かしい思い出の一コマを、クラス会だよりでご紹介したいと思います。

△会報・名簿について▼

情報社会の現代を反映してか、最近名簿などを悪用される場合があります。会員の皆様には保管に充分ご注意頂きますようお願いいたします。

△新入会員の募集▼

白友会の会員数は、毎年新入会員を迎え増えています。しかし、未だ白友会への入会方法を御存知でない方もあるように思われます。

左記連絡先をご利用の上、入会をお待ちしております。

白友会事務局

☎〇七二六一八四一〇八七一

編集後記

二〇〇二年(平成十四年)午の年の会報をお送り致します。学生の生活の場であった学生寮が平成十三年三月で閉寮になりましたので、今回は「清泉寮の思い出」のコーナーを設けました。最後になりましたが、お忙しい中、ご執筆頂きました皆様深く感謝致します。

会報担当 小倉栄子・小野恵美子・城戸滝枝

訃報

・平井 三代子(旧姓 金田)氏

准看護学校 昭和三十八年度卒業 9回生
 二年課程定時制 昭和四十三年度卒業 2回生

・森 昌子(旧姓 齊藤)氏

助産婦学校 昭和二十二年卒業 2回生

謹んでご冥福をお祈りいたします